

## 2005 0718 イカダ漂流顛末記

2007 0318 記

湘南渚獲物倶楽部主幹 増田多加男

イカダで漂流してしまった時の顛末を深い反省を込めて、レポートとしてまとめておきました。こういう失敗の記録を残しておけば、次回への参考となると考えました。

### 2005 0718 イカダ航海実行の顛末は・・・

2005年7月、ついにイカダ相模湾実行計画を打ち上げて、誘いの連絡をしてしまいました。夜明け前1時間の間に、砂浜で作り上げるためには、前回まで行なっていたロープワークのハイレベル知識・技術を必要とするイカダ(写真):最少部材の杉丸太とテンションロープワークのみで全て作るもの・・・だとメンバー構成上:ロープ結索の質・レベル差による強度不安があると考えました。



そこで・・・備品倉庫のある野営場にて16日土曜日一日の10時間、今回用に新たに十分な安全構造体を持つステンレスボルトナットを使用した組立てタイプのイカダを作る決断をしました。今回のホームセンターで売っているツーバイフォー部材を使った4畳床組ボルトジョイントタイプ:崩壊しない強度を持つ安全性を向上させた剛性イカダです。

この作製にはかなりの発想力・思考集中力と労力が必要でした。

設計強度保証と資材購入・大作業は、育ちと職業柄そんなに困難なことではありませんが、時間が勝負でした。

参加メンバーが不安に・・・ガッチリとした構造体を作り赤茶色の耐水撥水塗装を施し・・・崩壊の不安がないように考えました。

しかし、裏まで塗装する時間と塗料が不足して表のみの塗装しかできませんでした。

一度だけの航海なら塗装不足でも問題は全くないと考えました。



イカダが出来上がったのが17日早朝。

仮組みし安全性と強度を確認、解体と組立て時間を把握。

その後、Eヨットクラブに出向き、今回の目的「海環境プログラムの事前調査と試行」を説明「いざどうしようもない状況になってしまった場合」のレスキュー依頼をお願いし快く了解を得ました。

その足で、E海上保安庁、知り合いであるKNHライフセービング協会：レスキューNPOにも相談しておこうと考えましたが、でも大丈夫だろうと甘く判断、相談を躊躇してしまいました。・・・<これが、後々に響いてきます>

17日、夕方メンバーと野営場で車に荷積し、参加メンバーを確認、人数は私を含め3名になりました。

明日早朝の天候予報：スタート時向かい風・南風が吹き、進まないことを前提に考えれば、3名だとスタート時に進まない・その後リタイヤの筋書きが見えてきますが・・・まあ、やってみましょう。

夜に江ノ島に装備を車で搬入。

荷降ろしはせず、海の状態をギリギリまで観察し実行するかどうか判断することにしました。出発前18日午前1時30分頃は南風がありました。このままだと中止とすることを決めました。しかし午前3時には無風となり、海のうねりも小さく静かです。予報では18日朝9：00ごろから海上からの帰還に追い風：絶好の南風となるようでした。

18日夜明け前、E大橋午前3：30メンバーが集まってきました。

海の状態の急好転を感じ、私は腹を据え出航することにしました。

橋の上から荷降ろし、砂浜で組立て5：10分頃完了。



重いイカダを漕艇することに気合満々・やる気一杯の気持ちで出航しました。

・・・イカダは重くないと簡単に転覆してしまいますから、軽すぎない重過ぎない・人力で運ぶことが可能なギリギリの重量で作ってあります。

イカダスタート時には私はパドリングしないようにしました。ラダー（舵）操舵と指示のみにしました。それは、進むべき方向への微調整が必要だったからです。

・・・出航直前メンバーは冗談と思ったようですが、「400m先の小堤防までなら行けるはず。」と言ったことは、実は私は本心の言葉。漕げなければ進まない・・・からです。

出発時海の状況は良く、無風・極小のうねりが少々のため、2名を漕ぎ手として海上に向かうことへの迷いと不安が軽くなっていました。

本心は、操舵1名+漕ぎ手は5名ほどほしい、何故なら4名常時漕ぎ手：1名休息交代制で漕げるので疲労軽減できますから・・・

スタート直後のK川河口末端では反流となっており前に進めず戸惑いましたが、何とか反流を抜け、E島の温泉西まで辿り着きました。それ以降は予想以上に進むことができ、潮の流れが片瀬川からE島船着場方面に向かってあるようでした。



私は後方でラダー操舵しながらカヌーのロングパドルで漕ぎ、左右に移動しながら進行方向を調整する方法で行ないました。

その後、ロングパドルだと効率が悪いのでパドルを置き、ラダー操作のみで、曲がるサイドにプラスの力が掛かるように方向を調整しつつラダー漕ぎにしました。  
センターボード装着によりラダーの利きは良い感じでした。



私の事前予想は、南風に立ち向かいながら船着場手前までかなり苦労して辿り着くのが精一杯だろうと考えていました。漕ぎ手の力と気力、無風・追い潮流のおかげでB R場と呼ばれている前まで約1時間で着いてしまいました。

良い方の予想外です。

ここまでは無風。イカダはコントロール可能。U磯が一望。

Pさんの黄色のウエアーも視認できました。

考えられないような順調なすべり出し。

ここにイカダがいる



6 : 30 過ぎ、予想よりも海は静かなので安心してB R場沖250mくらいにアンカーを1つだけ降ろし、釣り開始。

私が打ったアンカーの底はロープ長30m程ですが、約30秒後に投入したAさんは、バーチカルジグだと底15mだと言っています。

深さの意見が合わず・・・変だなと思いましたが、海に際立った動きが無く、風も無風だったので「変だと思った直感」に対処しませんでした。

この時に、見えない潮の流れに気付くべきでした。

アンカーを更に2個追加すれば何とか漂流が止まった可能性もあったし、釣りをしながら絶えず交替でパドリングすれば当初の位置に留まっていたことができた可能性もありました。やはり直感は正しいことが多いです。

私が、出発後のうまく行った展開に安心し、OD沖からTD西・CG方向に流れる潮の上に乗っていることに注意・自覚しないまま安住してしまっていたと思い、反省してます。迂闊でした。

7：30頃から微風が南東方向から・・・東風へ。天気予想とは異なり南風ではありませんでした。その頃からTD寄りにジワジワ流されはじめたようでした。

アンカーを打ってあるので安心してしまい、微小な動きに気付くのが遅れました。

愚かでした。



8：00流され始めたと思い、東風が南に変わる気配がないためEヨットクラブへのレスキュー依頼のタイミングを考えはじめました。

8：30頃、かなり西に流されていることを自覚。

9：00頃、Iさんと電話連絡。

状況を報告しながら話す。

1Km以上西まで流され、更に潮流に引っ張られていると確信。

8：00～9：00の1時間で流されたと思われました。

この時間帯に少しだけ釣れたため、漂流の心配を忘れ釣りに専念していました。  
不覚でした。

すぐに帰ることを決断しましたが、東風のため南東方向に、漕いでも漕いでも進みません。  
西にもって行かれるか、その場に留まっているかでした。

イカダのコントロールは不可能。

セールを張りセンターボードとの揚力で南東に進もうと試行しましたが、進行不可能。  
小さなセールでは、揚力遡上も幅がある潮流と相反し、全く期待できなくなっていました。  
じたばたじたばた漕ぎますが、全く進みません。

1台目のマリンジェットが通過。さらに、じたばたじたばた漕ぎましたが、進まない・・・。  
もっと、じたばたじたばた漕ぎましたが進みません。

海上に固定した感じで漕がなければ流されています。・・・自力でこの潮流から脱出できな  
いと判断。

西への潮流と西へ向かう東風が一致しているので重いイカダと漕ぎパワーでは全く歯が立  
たない・・・私たちの力不足、能力不足です。



Eヨットクラブに救助連絡を頼もうとした時、女性操縦のマリンジェットを視認。  
かなり遠いが手とキャップを振って傍に来て貰い、曳航をお願いしました。  
この場所からですとEヨットクラブのレスキュー艇が来るまでには40分以上かかります。  
その時間に流される西漂流距離を防ぐため、この流れからまず逃れることを優先しました。

曳航途中、たびたび波がイカダ全面を覆いました。10～15cmの海水がイカダ床面を  
頻繁に流れます、沈みそう。

私、「後に移動しろ。流されるぞ!」と怒鳴りました。

波がイカダ上を流れて行きます。

体の周りを波が流れています。

その波に流されそうになりイカダから離され落ちそうになってしまいます。

必死でロープにしがみつきました。半身は海の中。眼は真剣。

水族館沖400mあたりまで白煙を上げながらマリンジェットで曳航していただく。

ここまで白煙を上げ過ぎ、これ以上曳航できないと・・・

助けていただいた女性に、きつい言葉で言われました。

「あんたの名前は、どこの人? 言いなさい!!」

「後は自力で行け!!・・・」

だが、帰るべき橋の東方向は真正面の向かい風で進行不可能。

このままだと、KN海水浴場につつまむか、TD海岸につつまむか、あるいはCG海岸に  
風まかせでたどりついて崩壊するか・・・

9:45分ころですが、海岸の波は大きくなっていました。あと1時間後には、この波の  
状況からすれば、直進し海水浴場の海岸にこのままつつまむと、恐らくイカダは転倒、破  
損崩壊すると思われました。

海水浴場は避けたい・・・人が多すぎる。

破損した部材で事故になる。

サーファーしかいないTD・CGまで漂流することを覚悟しました。

先ほどのマリンジェットの女性が私たちを心配してイカダ周辺をウロウロしてくれていま  
した。

私がEヨットクラブにレスキュー依頼しようとした時と同時に傍に寄り・・・

「NHライフセーバーにレスキューを依頼してきたから、後はライフセーバーの指示に従ってよ。海水浴場に接岸すると思うから転倒に備えて！！荷物とかがバラバラになると海辺の人たちがケガするから固定して！！」

すぐに、荷物をイカダに再固定、座礁接岸準備。

5分後NHライフセービング協会の方が、レスキュー用大型マリッジットで曳航に来ていただきました。私の知り合いの方でした。恐縮しました。

橋の下まで曳航していただき私たちは無傷で、他の方々への災いも防ぐことができ幸運でした。

とにかくレスキューが今必要だと思った時にイカダの傍に動力付きの艇と誰かがいてくれたという幸運があったのが、ギリギリの状態のピンチまで追い込まれず免れた・・・運の良さだったと思いました。

本当に幸運でした。

また、事前にE島の海上保安庁、知り合いであるKNHライフセービング協会：レスキューNPOにも相談しておくべきであったと、レスキューされて後悔しながらの曳航中に配慮不足・判断の甘さ・事前準備不足を猛省しました。

ですが、時既に遅し・・・

「事前打ち合わせ・事前トレーニング・イカダ注意事項の徹底・お互いの性格・能力把握等」を私が、手抜き・省いてしまったのが、今回の問題の根源です。

自惚れ・驕り・自然力状況変化への対応軽視、風向のみに頼った帰還＝確実な自力帰還方法の軽視、能力不足自覚不足・ヨットクラブへのレスキュー依頼への甘え、自惚れなどが問題を起こした原因です。

一生懸命パドリングしました。潮流から脱出しようとしたのですが、私たちでは立ち向かえませんでした。

マリッジットの女性の方、ライフセーバーの方・・・助けていただいた方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。



今回のことは、私が気軽な気持ちで、初めての方々にも簡単に漕航できるようなコメントを安易に出してしまったことが原因です。

今までの自分の経験知識と判断基準を無視して、危ない行動なので簡単に参加希望者は集まらないだろうと勝手に思い込み、思いつきでイカダ参加へ煽りながら・不安な要素を打ち消すように・気持ちを焚き付けて誘ってしまったのが、漂流と曳航の誘引となったと深く反省しています。

また、いつもなら必ず行なう参加メンバー全員による「事前準備打ち合わせ・計画確認・事前トレーニングと技術確認・イカダ説明・注意事項の徹底・お互いの性格・能力把握等」を手抜き省いてしまったのが、今回の問題の根源です。

私の自惚れ・驕り・自然力状況変化への対応等の軽視、風向のみに頼った帰還 = 確実な自力帰還方法の軽視、ヨットクラブへのレスキュー依頼への甘え、初心者指導への自惚れなどです。

イカダ参加者が集まったことで気持ちが高揚してしまい、事前に必要な冷静な判断に欠けてしまいました。

迷惑をお掛けしました。本当に申し訳ありませんでした。

・・・事故も起きず怪我もなく陸上に帰還できたことだけが幸いでした。

